

石川県<u>血</u>羽咋高等学校 関東同窓会会報

第17号

2022年6月















「100 周年の節目に想う」 関東同窓会 第9代会長 赤池 清(宝達志水・上田 20 回生)

昨年11月に本多群司さんから会長を引き継ぎ、次代への橋渡し役と心しております。関東同窓会会報「絆」は、昨年から母校の各学級に配置されました。0Bの人生経験談が若人達の未来への道標になればと思っています。100周年を迎えるにあたり、これからも老壮青皆で知恵を出し合い、先輩達が築きあげた伝統を大切に受け継ぎ、さらに発展していけるよう、関東から提案を続けていきます。皆様よろしくお願い申しあげます。



「新副会長になって思うこと」 関東同窓会 副会長 大﨑 繁一(宝達志水・上田出 21回生)

母校が百周年を迎える時に、副会長になることは、とても名誉な事です。羽咋高校の1世紀にわたる歴史では、地震や台風などの天災、戦争などの人災の厳しい影響もありました。それは今でも変わらずウクライナとロシアの戦闘、地球温暖化による異常気象など、これからの百年も決して平坦な道ではないと思われます。

対外的なことだけではなく、校内的にも、決して順調な百年間ではなかったはずです。百年前の事情はさすがにわかりませんが、年齢的には 50 年前のことは推察でき

ます。様々なご意見はあろうかと思いますが、昨今の生徒募集と進学実績の不振については、私の在籍中から厳しい批判もありました。羽咋高校の「自由放任主義」と「中途半端な能力別クラス」の弊害が指摘されていました。

羽咋高校生の「従順さ」に教員が甘え、進学指導、個別指導が不十分であるという意見が当時から数多くあり、何年にもわたりその状況が続き、それが今日の状態に至っているというご意見も多くあります。「自由放任教育」「中途半端な能力別教育」を受けた人たちの高校時代の思い出は、よいものとは言えず、関東同窓会にも当然、出席者は少数にとどまっています。

微力ながら、この負の遺産を解消して、過去のしがらみを捨て、笑顔で集まれる同窓会、中学校の生徒、 保護者、教員の信頼を得て生徒募集のできる母校となるために、尽くしていきたいと考えております。



「次の 100 年に向けて」 羽咋高校 校長 梅本 浩照(志賀・北吉田 35 回生)

羽咋高校関東同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しまして物心両面にわたるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本校は今年度いよいよ、創立百周年を迎えます。制服も一新し、一学年4クラス、全 12 クラスでの新たな出発です。皆さんもご存じのとおり、少子化が進む今、学校規模の維持や生徒の確保は年々難しくなっています。平成元年には 20,000 人いた本県の中学卒業者は平成8年には 15,000 人を割り込み、平成 17 年には 12,000 人

を切りました。ちなみに平成17年の東京都の中学校卒業者数は99,000弱でした。生徒の減少はさらに進み、本県では平成30年に11,000人を切りましたが、東京都ではこの年102,000を少し上回っていました。少子化が進む中で東京都などの都市部はこの間、横這い若しくは微増という状況でした。石川県と東京都のこの差は、能登と金沢の間でも見られ、地方の少子化はさらに加速しています。

地元羽咋郡・市の中学校卒業者を見ると、平成17年の608名から、平成30年には3割近く減少して436名となっています。本校の募集定員が一クラス減となった平成2年には425名、昨年は389名でした。現在、羽咋郡・市には全日制高校が四校あり、その募集定員の合計は440名ですが、今春の新入生は本校を除き定員割れの状況です。学区制の廃止以降金沢への流れも増え、授業料の実質負担がなくなり私立進学へのハードルも低くなっています。

厳しい状況にはありますが、本校は今後も地域から求められる学校であり続けなければなりません。地域の熱い思いで創立した本校は、これからも社会や地域のニーズに応え、次なる時代を支える若者の育成に全力で努めてまいります。同窓生の皆様には、これからも本校への温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記念事業として皆様からのご支援をいただき、図書館棟一階が「杜の鐘ホール」として生まれ変わります。関東同窓会の皆様も是非、帰郷の際はお立ち寄りください。

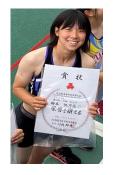
第9回 現役部活紹介 陸上部 顧問:本多健太郎先生

近年の羽咋高校陸上部は20名程度の部員で活動をしています。年々生徒募集が減少し、令和4年度はついに1学年4クラスで全校12クラスとなりました。部員数も減ってきている状態の中で、総合優勝からは遠のいてはいますが、それでも毎年各種目での有力選手が、大会で上位入賞を果たしています。顧問は陸上競技経験者ではありませんが、外部指導者である本校OBの宮本隆コーチの指導の下で、生徒は熱心に練習に取り組んでいます。。

近年の成績について、令和3年度総体では現3年生の橋本帆乃花さんがやり投げで北信越大会4位に入賞し、全国大会出場を果たしました。彼女は中学時代から有力選手でしたが、高校入学後も記録を伸ばし、2年次での大舞台を経験しました。やり投げの他にハンマー投げ、円盤投げでも県上位に入賞しており、秋の県新人戦では3種目優勝を果たしています。また、昨年度は宮本コーチがスカウトした野球部の女子部員が、やり投げに挑戦、見事新人戦で6位入賞を果たして、北信越大会に出場しました。新人戦では他にも2名の選手が北信越大会に出場しており、少数精鋭体制でこれからも練習に励んでいきます。

「かけがえのないもの」

令和4年度 部長:橋本 帆乃花 令和4年4月現在で、陸上競技部に は1年生3名、2年生4名、3年生9名、 マネージャー5名の計21名が所属し ています。以前に比べると部員数は 減少傾向にあるようですが、コーチの 宮本先生の指導の下で全員しっかり と練習に取り組んでいて、その中でも



毎年複数の選手が上位大会で結果を残しています。 内容は、水曜日が自主練習、日曜日は休みで週5・6 日、1日約2時間集中して行っています。コーチの宮本 先生は本校 OB であり、円盤投げで、インターハイ出 場経験がある尊敬する指導者です。先生は、どんな種 目に対しても練習メニューを作ってくださり、私たちは、 そのメニューに沿って自分自身の課題を意識しながら 日々練習しています。陸上部は、フィールド競技と長距 離種目で、成果を残している部員が多いです。800m や3000m障害で北信越大会に出場した部員もいます し、私自身、昨年はやり投げで北信越大会やインター ハイに出場することができました。

私は小学校4年生から陸上競技を始め、これまで多く の人との関わりを持って、たくさんの経験を積んできました。私にとって陸上競技は、自分自身の可能性を引き 出してくれるかけがえのないものです。ライバルがいる からこそ自分の成長につながり、大会や交流を重ねて行く中で、計画性が生まれ行動力が身につき、精神面・肉体面が鍛えられていきます。伸び悩んでいても、一日一日を大切にして努力していれば、必ずいい結果が残せます。そんな中で、自己記録が出た時は本当にうれしいです。陸上競技は、そんなたくさんの出来事を生み出してくれるので、私にとっては、とても楽しんで取り組めるかけがえのないものとなっています。



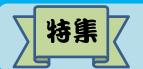
「EVER ONWARD」限りなき前進 陸上競技部コーチ 宮本 隆(高21回)

私は大学卒業後、体育の教員として、また陸上競技部の監督として、38年間の教員生活を無事終えたが、残念ながら母校羽咋高校に勤務することはなかった。定年退職後、暫くはのんびりと過ごしていたが、先々代の校長先生から、陸上競技部の生徒を見てほしいと依頼があり、新しい指導法や自分自身の体力面など、不安な面もあり躊躇することもあったが、母校陸上競技発展の一助になるならと思い、引き受けることにした。

私が羽咋高校陸上部に入部したのは、昭和41年の 入学まもなくであり、あれから 50 数年が経過した。当時 は旧校舎の時代で、グラウンドも狭く、野球部、ラグビー 部、ハンドボール部、陸上競技部が所狭しと活動して いたことを思い出す。陸上競技は、「より速く・より遠く」と いう自己の記録への挑戦である。他の競技と異なり、勝 敗の他に自己記録の更新という目標があり、生徒達の 日々の積み重ねが大切であると考えている。私が競技 を始めた当時の顧問の先生には、小林一茶の「かたつ むり そろそろ登れ 富士の山」を引き合いに、日々の ひたむきな努力で、一歩ずつ前へ進むことの大切さを 教えていただいた。それが陸上競技部の活動目標であ る「EVER ONWARD」限りなき前進に繋がっている。

私は投擲種目が専門であり、短距離・中長距離・跳躍種目は不得手で、また70歳を過ぎ最新の技術指導は難しいと考えているが、毎日部活動に顔を出し、部員に声をかけることがいま私にできることと考えている。生徒たちには、それぞれの種目に向かって1秒、1cmでも記録が伸ばせるよう後押ししていきたいと考えている。

あの当時からの活動目標である「EVER ONWARD」は、いまでも部員たちに引き継がれ、競技会では横断幕が掲げられていて、最後の1分1秒まであきらめることなく、戦い抜くよう選手達を激励している。

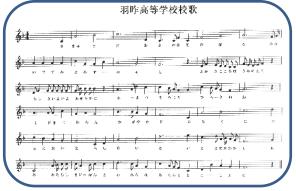


羽咋高校創女 100 周年記念 折口信夫氏 校歌 社の鐘

【羽咋高等学校 校歌】

大正 12 年に羽咋中学校として設立された我らが 母校は、昭和 24 年に学区制、男女共学の「石川県 立羽咋高等学校」となり、昭和 26 年に校歌が完成し ました。

校歌の作詞者は、折口信夫(おりくちしのぶ)先生です。先生は国文学者、民俗学者であり、歌人「釈迢空(しゃくちょうくう)」の名でも知られる方です。先生は、一の宮町出身の藤井春洋(はるみ)氏を養嗣子(ようしし)として迎えましたが、春洋氏は、第二次



大戦中に硫黄島の激戦で戦死されました。その後、春洋氏の墓を松林の中に建立し供養するため、たびたび羽咋の地を訪れておられました。そうしたご縁もあって、校歌の作詞依頼に対して、「ゆかりある羽咋のためなら」とご快諾くださったそうです。

歌詞の完成には1年7ヶ月の時を要しました。完成後、折口先生自身が「相当の自信作である」と述べておられたそうです。一連十句、三連。校歌としてはかなり長い歌です。

歌詞は1番から3番にかけて「朝の日」「晝凪(ひるな)ぎ」「ゆふべ」と一日の時の流れを追い、その中に「沙丘」「羽咋の杜」「邑知潟」「気多の浦」と郷土の風景が展開していきます。中ほどの四句では、清らかで力に満ちた羽咋の地に育ち、高い理想を持って生きる若者の姿が映し出され、続いて歌詞は、「古國能登」をルーツとして、若々しく活力ある「使命」を抱いて進めと呼びかけます。そして、視点は大きく国の未来へと開けてゆき、各連の最後に「ああ、新しき日本と吾等はあらむとこしへに」という言葉が繰り返されます。構成、情景、言葉の響きなど、各所に細やかな配慮があり、先生が時間をかけて羽咋の風土に寄り添いながら表現を練り、心血を注いで描き出した作品であることが実感できます。

作曲者は、東京音楽学校(現東京芸術大学)教授であり、日本の近代音楽の基礎を築かれた下総院一氏(しもおさ/しもうさかんいち)です。曲調は明るく、軽やかな旋律が格調高い古語を新鮮に彩っていきます。緩急のあるメロデイはとても歌いやすく男女ともに楽に声を出すことができ、晴

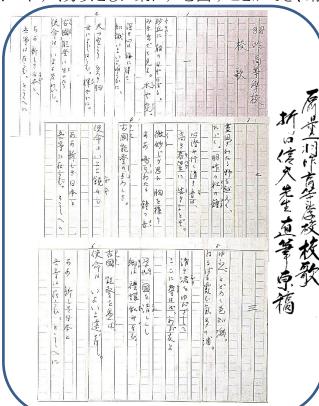
れ晴れと伸びやかに音が流れていきます。下総 氏が歌詞の意をよく汲み、工夫して下さったのだ と思われます。

歌声を聴かれた折口先生は、「私の歌は古い、 しかし、古いものにも良さはある。曲は新しい。 新旧一つになって進むべき道を示しているとも 考えられる。」と感想を語られたそうです。

古語を駆使した歌詞は難しい。しかし、この歌詞を学び歌うことで、神代から続く故郷の豊かさ、そこで成長する自分の姿を発見できます。長く歌い継ぐべき名作であります。



★折口信夫先生直筆原稿は、校長室に保管



【杜の鐘】

「杜の鐘」は、校歌の作詞者である折口信夫先生が寄贈され たものです。校歌の完成後、先生は謝礼を固持され「歌詞の中 にある杜の鐘は、学校の鐘の意である。サイレンを使っている なら鐘に変えて欲しい。」と述べられました。

昭和 26 年 7 月、寺西校長より尾張町佐野精四郎氏に制作を 依頼。「下端外形一尺、高さ七寸、上部外形五寸、価格約一万 七百円」という内容で契約され、7ヶ月後の昭和27年2月に 鐘は完成しました。みごとな彫刻で刻まれた「杜の鐘」の銘は 折口先生の揮毫です。佐野氏の談によると、当時、北國新聞に 「硫黄島で朽ち果てた中隊日記発見」という見出しで「故春洋 氏の名前が朽ち果てた名簿の中に発見された」という記事が 掲載され、羽咋高校の校歌や鐘についても記述があったとい います。佐野氏はその記事に深く心を打たれ、意を新たにして 「よい音が出るように」と試行錯誤を繰り返し、やっと三つ目



に会心の作として仕上げることができたのだそうです。「杜の鐘」の完成については各新 聞社が聞き伝え、北國、石川、毎日、読売の四紙にそれぞれ写真入りで報道されました。

「鐘」は時を告げる道具です。新しい日々への期待や意気込み、過ぎ去った昔への感謝 や哀惜の情を呼び覚まします。そうした時の連なりは歴史を形作っていきます。民俗学者 である折口先生は、遠い過去に思いを馳せ、生まれては未来へと向かう命を思い、絶え間 なく続く人間の歩みを祝福するものとして「鐘」を用いたのではないでしょうか。学び舎 に響く鐘の音は、若人に呼びかけ、若人を鼓舞するものです。「平和な時代を実現しなさ い。そのために学び続けなさい」という希望を託されたのではないかと推察します。そこ には、戦いに若い命を散らした人々への鎮魂の思いも込められていたのかもしれません。

「杜の鐘」は旧校舎の高台で澄んだ音を響かせていましたが、昭和 45 年に新校舎に移転 した後は、しまわれたままになっていました。しかし、歌詞の由来を知る国語科の船登芳



雄氏の提言で、創立 50 周年を機に校舎の中庭に ふたたび設置されました。現在は、卒業式で鐘を 鳴らして卒業生を送り出すという形がとられて います。(室内で挙行されるためレプリカを使 用。)折口先生は、校歌完成の2年後に逝去され ました。今は春洋氏と共に一の宮で眠る先生の魂 にも、羽咋高校に鳴り渡る鐘がよい音で響いてゆ くことを祈りたいと思います。

邓

咋

高

校

校

歌

下折

※高校二代校長寺西七郎氏・船登芳雄氏の50周年記念誌の文章を参考にいたしました。

【副会長:森村睦子(旧姓:倉部) 羽咋・島出 26 回生】

1 3

清はゆ吾あ使古あ微高心ひ晝 きるふ等あ命國あ湯 等あ命國あ妙 ブ 屈 命國に き 澄 等あ きな丘 は新は能ま空い心出に は新は能禮國 じ み ぎ い登譲を誓をると在しい登り よを和清はゆ霞どらきよのわ じはり き い登じ 望行羽わ 在し よは 朝 て には清のる い海見の わ思 5 ょ 總口 む日はたる胸と本に よ若 む日 生ら S よ日 き杜野 ひむろ明得水 る鐘の音 いまとぞ こ わ た ち か ち と々し きら 音のを やの L の知 は鐘越 や胸 T 浦潟へ 音 か 作作 曲詞

ア: 晝凪ぎ(ひるなぎ) イ:微妙(いみじき) ウ:饒々(にぎにぎ) エ:禮譲(れいじょう)

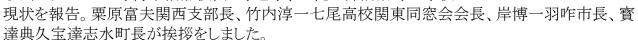
令和3年度

羽咋高校関東同窓会 総会

令和3年11月6日(土) アルカディア市ヶ谷(私学会館)

平成2年度はコロナ禍で開催できなかった総会を、平成3年度は、会場に28人、ズームオンラインで29人が参加して開催することができました。

轟千栄子同窓会本部会長が、オンラインで母校の 100 周年事業の 取り組みについて、梅本浩照校長が、進学、生徒の部活動等の学校の



役員改選が行われ、新会長に赤池清さん(20回生)が承認されました。赤池会長は「関東同窓会の発展、母校 100 周年記念事業への協力、校歌を作詞された折口信夫氏を顕彰するイベントを実施したい」と事業計画を発表しました。

最後に、折口氏作詞の校歌を静かに聴き、総会は無事終了しました。

令和元年度会計報告(令和元年9月1日~令和2年8月31日)

収入の部	金 額	内 容	支出の部	金 額	内 容
総会·懇親会会費	1,020,000	参加者 98 名	総会·懇親会費	1,059,995	会場費·飲食費·宅配送料
		(来賓 19 名、会員 79 名)	会議費	17,756	会議室使用料・お茶
寄付金	86,155		事務費	196,754	事務消耗品•送料
本部助成金	(注)		本部•支部交流会費	91,240	本部•関西支部•東海支部
広告料	351,857				(交通費・会費)
預金利息	0		会報費(会報 15 号)	183,500	絆 15 号印刷費·送料
前年度繰越金	155,548				
収入合計	1,613,560		支出合計	1,549,245	

(注) 令和元年助成金 40 万円は、令和元年 8 月入金の為、平成 30 年度収入として平成 30 年度会計報告済

【次期繰越金】64,315 円 [1,613,560(収入合計)-1,549,245(支出合計)]

令和2年度会計報告(令和2年9月1日~令和3年8月31日)

収入の部	金 額	内 容	支出の部	金 額	内 容
総会·懇親会会費	0		総会・懇親会費	0	
寄付金	100,451		会議費	0	
本部助成金	400,000		事務費	148,911	事務消耗品•送料
広告料	257,210		本部·支部交流会費	0	
預金利息	3		会報費(会報 16 号)	246,635	絆制作費・印刷費・送料
前年度繰越金	64,315			ĺ	
収入合計	821,979		支出合計	395,546	

【次期繰越金】426,433 円 [821,979(収入合計)—395,546(支出合計)]

関東同窓会 役員紹介

令和3年度の総会で承認されました。 役員の任期は2年間です。 ★新規

名誉会長 倉部 行雄 (中 18)	相談役★井上 猛(高 12) 理 事 塩谷 毅志(高 36) 山上 徹(高 14) 吉田 充基(高 36)
会 長 赤池 清(高 20)	山上 徹(高 14) 吉田 充基(高 36) ★本多 群司(高 16) ★松本 宝(高 39)
副会長★大﨑 繁一(高 21) 山川 富雄(高 25)	★大塚 清美(高 19) 須田 雅之(高 41)
★和田 智恵(高 26) ★森村 睦子(高 26) 赤池 典充(高 27)	★轟 暁子(高 20) 顧問 中島 正治(高 4) 大矢 昭雄(高 10) 本吉 昭子(高 14) 森 圭吾(高 49) ★上田 寛(高 55) ※宮谷伸一郎(高 32) 令和4年4月逝去
發田 朗 (高 30) ★北嶋 克悦 (高 31) 永島 和人 (高 32)	杉浦 節美 (高 22) 監 査 宝田 良正 (高 16) 小林 美紀 (高 25) ★竹川 利一 (高 22)
★川村 洋子(高 39) 相談役 西井 信夫(高 2) 治郎堂 實(高 7)	理 事 南 雄二 (高 20) 相 事 市 雄二 (高 20) 相 写子 (高 20) 北嶋 克悦 (高 31) 塩谷 毅志 (高 36)
藤岡	渡 憲次 (高 21) 木村 琴美 (高 26) ★笹川 道博 (高 28) □ ★ 本村 琴美 (高 26)
上口 不廠 (南 10)	中森 克政 (高 34) 地元世話稅 瀬戸 公英 (高 20)



「コロナ後の京都観光文化ガイド」(鳥影社) 山上 徹(14回生) 羽咋・栗生 同志社女子大学名誉教授



皆様、京都とはどのような都市とイメージされますか。京都 対災を 受けておらず、日本らしい原風景が多いこともあり、「一周遅れのトッ

プランナー」と称されています。マラソンなどの長距離走を観戦していますと、グランドのほぼ一周分遅れた選手が前を走っていると、一瞬、トップか? と錯覚します。それと同じく、文化遺産が多い京都では、一周遅れのタイムスリップが楽しめます。

本書は京都に赴任する「一周前」から構想をしておりました。しかしながら、発刊が人生の終章の「一周遅れ」となりました。本書は京都の観光文化力を紹介していますので、本書を読み解かれれば、京都通として仲間から一目おかれること間違いないなずです。コロナ禍の巣ごもり生活ともおさらばし、是非、京都観光をお楽しみ下さい。

なお、書名『コロナ後の京都観光文化力ガイド』(鳥影社、2022年4月、1,980円、403p.)をスマートフォン等に入力され、直接、「アマゾン通販」等からこ購入し、ご一読場がば、幸いです。



「福沢諭吉」(あかね書房)

芝田 勝茂(19回生) 羽咋·下曽称 児童文学作家

福沢諭吉が生まれたのは江戸時代末の天保時代です。天保年間に生まれた 人々は、その多くが青春時代に江戸から明治に時代が移り変わる「明治維新」 という大激動期を体験します。

アメリカへ行き、その後さらにヨーロッパにも行った諭吉は、その語学力を 生かし欧米のすすんだ文化を日本に取り入れ、日本をなんとか欧米に肩を並べ ることができる国にしようと、学校(慶應義塾)をつくり、欧米の文化を紹介し

ます。多くの日本人も、欧米文明に追いつこうと努力をしていました。しかしそれは、精神のあり 方ではなく、もっぱら技術だけを取り入れようとしたのです。

論吉が、欧米は男女平等の社会だといくら言っても、ほとんどの日本人は受け入れませんでした。 維新までは幕府のいいなり、維新後は政府のいいなりという日本人のあり方が変わらなければ、本 当に欧米に追いつくことはできない。どうすればよいのだろう。それが、論吉の生涯のテーマでし た。天保生まれでも、論吉には「維新」よりも「明治」のイメージが強くあります。それは、論吉 の目指したものが、目先の目標を唱えた人々とは異なり、その先の日本を見据えていたからだろう と思います。



なぜ、おばちゃん社長は 「無間改善」で「絶対安全」で 利益爆発の儲かる工場にできたのか?(ダイヤモンド社) 平 美都江(27回生) 羽咋・鶴多

事故の経験から始めた安全対策の徹底が、安全・快適な働く 環境を作り(「絶対安全」編)、そして効率的・ムダのない生産 へ、連鎖改善(「無間改善」編)を成し遂げました。

労災事故が絶えず、重労働、暑かったり、寒かったり辛い思

いをする作業を、安全かつ楽に行えるよう改善し、そのうえ、石川県平均給料の 2 倍の年収を創出し、有給休暇も十分取れる「企業」へと変身させることができました。それが、自社株 1 0 3 億円の評価にもなりました。

安全であること、快適に働けることと、利益を上げることは一直線につながっています。多くの中小企業、特に地方製造業が稼ぐ力を回復し、競争を勝ち抜いていくために、まずは従業員の安全・快適さの再検証をはじめてください。

必ずや、危険を排除するきっかけが見つかるものと確信しています。

今回の私の2冊をお読みいただけたら、その真意と背景がご理解いただけると思います。

会員多ットワーク

近況報告をして頂き、次の人にリレーする ことで、会いたい人 知りたい友の消息 など 会員の交流促進に役立てたいと思います。



趣味のゴルフをいつまでも楽しみたい 上杉 務 (9回生) 羽咋・千路

私は現在 83 歳の高齢者ですが、ゴルフを始めたのは、三洋電機で札幌に勤務していた時に、上司と近くのミニゴルフ場に行き、教えてもらったのが始まりです。春から秋の 6 か月は、石狩ゴルフ場のメンバー社員と月に3~4回プレーしておりました。北海道支社が取引先接待用に輪厚の札幌ゴルフ場の法人会員を持っていたので、春秋の社員コンペにも参加しておりました。大宮、東京支社に転勤後も、部署内、社内コンペにも参加しておりました。バブル時期であった白物家電技術委員会(日本電機工業会)では、各社の保養所(箱根、伊豆、那須)を持ち回りで総会し、翌日は近くのゴ

ルフ場でコンペがありました。一番印象に残っているのは、加賀屋で総会し、翌日は朱鷺の台ゴルフ場でコンペに参加したことです。

会社定年後は、ゴルフはやめておりました。70 歳過ぎから町内ゴルフコンペに参加しましたが、体力、筋力が低下し、各クラブの飛距離が落ちてきました。特に、後期高齢者の75 歳過ぎから、白内障、前立腺肥大、膀胱癌等が次々に発生し、手術してよくなりましたが、病気治療後2~3か月は絶対安静と言われ、その間、体力、筋力が落ち、ゴルフは初心者レベルに落ちてしまい、100を切れなくなったので、毎日ストレッチと一万歩を歩いて体力、筋力回復に努力しております。

そこで、ゴルフ研究家、梅本晃一氏著作の『いくつに成ってもスコアが縮まる。紹介ゴルフの極意』を買い、第6章「生涯ゴルフ」は、心と体も揃えば楽しめると書いてありましたが、各スイングの仕方を何回も読んで、練習場へ行って試してみましたが、飛距離がなかなかアップしません。そこで、家の近くの友人(シングルプレーヤー)にどうすればよいのかと聞きましたら、「YouTube を見たら」とアドバイスをもらい、YouTube を見てみると、その考え方、教え方に共感ができた。その後は、菅原大地氏の『サイコーのスイングで飛ばせ』 QR コード付きの本を買い、家の中でも練習して、練習場に行き試して徐々に効果がでてきており、夏までに 100 を切れるように努力中です。



千里浜海岸の原風景を懐かしむ

山上 徹 (14回生) 羽咋·栗生

79 歳の我が人生。羽高を卒業以来、約60年の年月を経過した。その高校生活は僅か3年間に過ぎませんが、今でもラグビー部の仲間らと泥まみれでスクラムやタックルの練習に明け暮れしたことを想い出します。夏の合宿の際、朝飯前に学校から千里浜海岸までのマラソン競走や砂浜の厳しい特訓が忘れられません。当時、羽高ラグビー部は県体などで数々優勝を重ね、他校から強豪校として恐れられていました。

千里浜海岸(羽咋市と宝達志水町を含む)は、頻繁にメディアに登場し、我々が誇り

とする場所といえます。最近、「年々歳々花相似たり。歳々年々人同じからず」という中国の唐代の詩が心をよぎります。それは自然の花が年々、同じように咲き、年々歳々故郷は相似たりかと思いきや、近年、千里浜海岸は人と同じく年を経る毎に浸食が激しく、砂浜の幅が狭まり、荒天時には車両規制が行われる状態に変貌しています。

日本において千里浜海岸だけが、なぜ地盤が固くドライブウェイとして利用できるのでしょうか? それは砂の質がきめが細かく、海水が適度に加わると砂浜が固く締まるというのが定説です。しかし、世界でも稀な天然の道路となる要因は、砂の質だけでなく、背後の宝達山の天然の雨が地下水となって流れ出、千里浜海岸で「山の水と海の水」が合流し、海面までの砂浜(汀線)を固く締めると考えます。

千里浜地区は明治の町村制施行により、塵浜村(1889年から1927年まで)と称し、それは「浜に塵埃が打ち上げる」に由来しました。千里浜海岸一帯の約八*。では、昔から白山を源流とする手取川の土砂が沿岸流として漂着・堆積し、80~元程の砂浜を形成していました。1980年代以降、手取川ダムや金沢港等が建設され、沿岸流によって漂着する土砂量が激減し、現在、千里浜海岸は浸食が加速し、砂浜消失の危機に陥っています。しかし、千里浜海岸は、もはや地元だけの財産でなく、人類共通の財産であり、以前の広い砂浜を復元させるためにも、「山・川・海の水流」を三位一体に捉え、養浜工事等が国策によって実施されることを願う今日この頃です。



帯刀姿のイギリス人 坂口 功 (16 回生) 羽咋・中央

明治2年の加賀藩後継の金沢藩に若い藩士子弟への語学教育のためにイギリス人が採用された。学校は七尾で開かれましたが、刀をさした姿の彼の写真は郷土史家にとっては有名な存在です。彼に習った生徒の中には高峰譲吉もいて、後年のタカジアスターゼの発見やアメリカでの事業成功などの成果を考えれば、藩の意図は実を結んでいると言えるでしょう。彼は藩の都合により2年程で他都市に移り20年後帰国したが、日本人の奥さんも一緒に英国に渡っています。

羽咋高校の元教諭で、彼の足跡研究を定年後のライフワークとしていた先生がいたことをご存知でしょうか? 先生は県保管、国や他県保管の資料等を調べるために各地を訪問して疑問点を解明、彼のその後を調べるために現地新聞の協力も得て子孫を探すイギリスの旅も2度に及んでいます。その結果、子孫と会い、彼の墓及び一度も日本に帰ることのなかった奥さんの墓を探し出し、お参りをしています。一連の研究成果は『オーズボン紀行』として平成6年に北国新聞社より刊行されています。先生の名は「今井一良」さんで、昭和38年頃の英語担当、新聞部の顧問であったこと、そして津幡から通っておられたことを記憶しています。なお、『オーズボン紀行』の本は絶版となり、私はアマゾンで古本を探し入手したので本稿を書くことができました。

以下個人的なことになりますが、私は高校生の時は新聞部に属しており、顧問の今井先生には大変お世話になりました。英語の授業も受けました。普通はここまでですが、私の場合は続きがありました。結婚後、妻の親戚の親戚が今井先生であること、数年前にこの親戚筋から 13 年前に今井先生が亡くなられたこと、そして『オーズボン紀行』の研究をしたことと、成果本の刊行を知りました。また、高峰譲吉の子孫がアメリカで成功した事業収益からの社会的還元を原資として昭和 27 年から日本の高峰賞が創設されたことは石川県では周知のことです。今は違う財源を使い金沢市の中学生を対象にして賞は継続していますが、一時期県下の高校生も対象になり、羽咋高から 2 人同時受賞の年もありました。(私はその時の一人です。)



大雪の朝、飼犬と 散歩コースの田んぼで

55.6年前―えれきとりっく・みすと

吉井 加壽人 (21回生) 羽咋・大川

ビートルズがやって来た。1 年生の冬と憶えておりましたら夏でした。「ビートルズを見に行くべからず」とのお触れが出た。公演日前日から最終日までの欠席がチェックされた。1966年6/29(水)~7/2(土)。金沢の観光会館ではない。MROホールでもない。日本武道館である。東京である。行かれるわけないでしょがいね。2 日間休んだ先生がいたのなら知ってますけど。

当然エレキギターは御法度であった。ひとつ上の方々が禁を破ったのは、いつの羽高祭だったか予餞会だったか。エレキバンド初登場。アンプはステージの中幕を引いた後ろに隠した。演奏開始。大喝采。アンプ見当らざればエレキなる

まじ。教育的解釈が望まれた。あにはからんやお奉行様は解釈が違った。ストップ。演奏打切り。退場。ジ・エンド。かくして後年大林宣彦監督の映画にもなった『青春デンデケデケデケ』の舞台は、香川県立観音寺高校に譲る運びと相成る。世にも短き尻切れ蜻蛉パフォーマンスでしたけれど、エレキの迫力に感電しました。

またある年は、ステージ下手に登壇した上級生が、森進一のデビュー曲『女のためいき』を独唱した。伴奏もマイクもなし。さかんにヤジが飛んだ。ヤジは弁論大会にも演劇部の発表にもつきものであったが、この時のヤジは上等とは言えなかった。意表を突かれすぎて罵るしかなかったようだ。お奉行様のストップがかからず最後の最後まで歌い切った上級生は、何やら一言吐き捨てて袖に入った。思い出すたび尊敬いたします。

半世紀の昔ならで、つい 5 年か 10 年前のこと。幼馴染の倅が羽高祭で漫才をやったというのです。倅は自称「人呼んでエレキのガキ大将」。それが一体、何が悲しゅうて漫才を。電話して当人に聞いてもらいますと、生徒手帳にエレキギター禁止と書いてあったからと。Oh,yeah! ふれーふれー羽咋。



齢七十を過ぎて思う

杉浦(旧姓:平沼)節美(22回生)羽咋•千里

ふと、思いを巡らせたら「ありゃまぁ!こんだけ良く生きて来たもんだ」と考えてしまう。何を成せたか? 小言と皺だけが増えて、それでも親から言われた言葉「有言実行」を守ってやっていますが、他人から見れば好きな事だけになるのでしょうか?

私は、戦後復興中の生まれではあるが、戦後から今に至るまで、えらく 文明の進み方が速いもんだ、と思っている。それは通信機器一つとり挙げても言える。受話器を取り「もしも し何番お願いします」と交換手に伝え、次にダイヤル式、プッシュホンとなり、アンテナを立てた移動式電話 機から今に至る。我々が身に付けてなければ不自由な位に必要となってしまった携帯電話の世になり、今 後もっと進化していく事が、明白であろうと思っている。いや、既になっている。存在をマークされ、日本中、 世界中の人と物の情報が即座に解ってしまうことが、あたり前の世の中になってゆくのだろう。全ての生活の 事柄が国からナンバリングされ、ジュース一本買うお金の出し入れまでも見られ、下手をすると、何処で何を 言ったかまで、知られてしまう世の中になってゆくのだろう。

次の若者達よ。世間に添いながらも自分を活かし、押し出された生命の意義を考え、死ぬまで生きて行って下さい。ただ一つ加えさせていただくなら、ネット上で流されてくる事や世間の言う事に対して、本当なのかと疑問に思ってほしい。疑問に思えば勉強しなければならないし、一つの事柄は一つではないからそれを解る為にも、やはり勉強しなければならんと言うことです。この年寄りだって、死ぬまで勉強することだらけなわけです。そして、個性豊かな人達に多く出会い、多く行動し、最後に一番大切な事は、多くを反省する事であると思う。そうしないと、又同じ失敗をするのです。反省をすれば、己の姿が見られ、おのずと感謝と言う気持ちも持てるわけです。

人は死ぬる時は何を思うものなのか? 季節折々その故郷の情景と生活、おもしろかった学生時代、自立した頃など、人の不思議な顔と懐かしい顔、顔、顔を思い浮かべて死ぬのだろう。私はまた、そして「あー あ楽しかった」と言って死にたい。だからもう少し自分の出来る事を頑張ろうかなぁと。



20代の選択

越野壽夫(24回生)宝達志水•河原

50 年前の昭和 47 年 2 月に大学受験で上京、受験日が「あさま山荘事件」の発生日で、結果発表日が解決日。入学後も継続していた大学紛争でキャンパスも騒然とした状態で 1 年次と 3 年次の後期がロックアウト。法学部に入ったものの法律を学ぶこともなく、気付いたら 4 年生。法律を全く知らずに社会に出る気にもなれず、卒業後は、アルバイトしながら法律を一から勉強することに。その時のアルバイトが駒場公園内にあった都立近代文学博物館の宿直の仕事。建物が壮麗な洋館で石川県人にも所縁のある加賀前田藩の元前田侯爵邸。NHK の大河ドラマの撮

影にもこの洋館が使われ、鶴田浩二さんの来訪シーンや加藤剛さんの憤死のシーン、また永島敏行さんと 岸本佳代子さんのキスシーンの撮影もあり管理責任者として立ち会ったことが懐かしい思い出です。博物 館は閉館し、現在、洋館が記念建築物として一般公開されており、興味のある方は、一度訪れてみてはい かがでしょうか。

20代も終盤に差し掛かったとき、某会社で法務人材の募集があり応募、運よく採用され入社。なんとその会社の CM に起用されていたのが岸本佳代子さんで、来社時の姿を目にし、何かの縁を感じたものです。入社後は、法務業務、新事業の開発業務を担当した後、支店、人事部を経て、最後は法務部門の責任者となり会社人生を終えました。法務知識をベースに担当職務を全うでき、また開発した事業が主要事業部門にまで成長したこと、さらに現在、土浦の裁判所で職務経験を活かせる調停委員、司法委員の職に就いていること等を振り返ると、大学卒業後の20代は、将来への不安で悶々とした日々でもありましたが、その時に選択した方向で努力したことは報われたという思いがしています。

最後に、コロナ禍のため、同期の仲間との定期的な飲み会やゴルフが中止になり残念な思いがしていますが、早く以前のような日々が取り戻せることを願っております。



世界のうねりの中で 村井(旧姓:鉄矢)博(26回生)宝達志水・二口

私は、宝達志水町(旧志雄町)二口で生まれ、田んぼで育った幼少期でした。羽咋高校を卒業後大学に進学、その後在京の総合電気メーカーに就職、40年余りを国際関連業務一筋で過ごしたサラリーマン人生でした。現役引退後はそれまでの経験を活かし貿易促進を目的とした機関の運営に携わっています。

現役時代の40年余りを振り返れば、世界の大きなうねりの中を必死で駆け抜けた人生だったように感じます。1970年代は2度のオイルショックと、高度成長期の終焉、就

職氷河期と言われた中で学生生活を終え社会人となりました。1980年代は日米貿易摩擦、さらにはココム違反事件(旧ソ連への不正輸出)などによるジャパンバッシング(日本たたき)が行われ日米関係が悪化、そんな中でのアメリカへの赴任となり、国際問題の狭間で翻弄させられた時代でした。1990年代は日本の貿易黒字が膨らみ世界各国から市場開放圧力が高まり国策としての輸入拡大が叫ばれる中、海外からの輸入促進活動に邁進しました。2000年代は中国が世界の工場に成長する中で、香港への赴任が決まり中国への製造委託事業で大きな成果を上げることができました。EMSと言われる電子機器製造受託サービス企業の工場の巨大さに圧倒させられたことを思い出します。2010年代は世界経済低迷の中、東日本大震災による福島原発の事故などで原発事業計画が崩れ、事業環境が大きく揺らぎ始めました。かつては、輸出や技術供与、海外生産で世界進出し発展してきた日本の電気産業ですが、そうした相手国の追随で衰退を余儀なくされています。

無常観すら感じてしまいますが、今思うことは、常に変化する世界情勢の中、その時々で最善と思える努力をしていくことが私たちの宿命ではないかということです。ひとつひとつの経験は決して無駄ではなくその積み重ねが次世代への新たなうねりを形成していくことになることを信じ、生涯努力を続けていきたいと思っています。現下のウクライナ情勢やコロナ禍を見るにつけても、世界が平和で平穏であることを願ってやみません。





学校法人 大原学園 理事長

人間は、自分の思う通りの人間になる

中川 和久(27回生)羽咋・千里浜

「人間は、自分の思う通りの人間になる」

私が、仕事を通じて多くの若者と接する中で、感じてきたことです。成功したいと思う人は、「自分は成功する」と常に考えている必要があります。しかし、現実には、なかなかそうはいきません。自分の成功を信じている人より、「自分はダメだ」「成功できない」

と考えている人が多いのです。多くの失敗を通じてそうなるのですが、ここで是非、「失敗は成功へのきっかけ」と考えてください。みんな多くの失敗をします。失敗した時の対応により人生が変わります。

重要なことは、成功への行動や考え方を知ることです。それは、失敗して「失敗した原因」を探り、行動を改善することです。落ち込み、自分をだめだと考えることではないのです。

「自分は成功する」と常に考えていれば、失敗は成功へのきっかけとなります。具体的な人生の成功の一つに、「自分に合った仕事をし、高収入を得ること」があります。しかし、多くの若者が「将来やってみたい仕事が分からない」「自分の適性が分からない」と考えます。経験がないのですから当然です。安心してください。みんな同じです。その中で選択していく必要があります。

そのためには、「働いている方」の経験を伺い、疑似体験をし、「何が人のためになるか」を考え、 仕事を選択していきましょう。仕事についてみて、向いていないと分かれば、その原因を考え、仕 事を変更すればいいのです。

「人間は、自分の思う通りの人間になる」

皆さんが成功するためには、「自分は成功する」と常に考え、「失敗したら原因を考え、やり方を改善する」ことです。

是非、いい人生を送ってください。



失敗から学ぶ時

門口 英夫 (31 回生) 志賀・末吉

最近、世の中の変化のスピードが凄まじい。疫病、災害に戦争まで、何十年、何百年単位のことが日常のように起こっている。時間の進み方が速く感じるのは年齢のせいだけではないように思え、それが日々加速している感覚すらある。

自分の周りの変化を見ると、会社は完全テレワークになり、地元に戻ったり地方移住したりしてリモートから仕事する仲間も出てきた。今更元に戻り

たくもないが、往復3時間も掛けて満員電車で通勤していたのは一体何だったのか。もちろん業種にはよるが、当たり前と思っていた常識がこの2年ほどで崩壊してしまった。

仕事でいうと、小学校に入学する子供たちが大学を卒業する頃には、半数以上は今存在していない職業に就くと言われている。時代はそれほど変わり続けており、ただ一つの正解を求める試験問題のような世界は、わかりやすくはあるが、とても不自然なことなのかもしれない。

仕事はどんどん複雑になり、答えのない問題だけでなく、そもそも問題すらはっきりしないことも増えてきた。そんな中で疲弊して潰れる人と、生き残る人がいて、どうやら「とにかくやってみよう」で様々なチャレンジと失敗を繰り返すのが良いようだ。失敗の経験自体がスキルになっていく、いわゆる「失敗しないのが失敗」という事らしい。

うまく行く保証は何もないが、ありがたいことに今年たまたま早期退職のチャンスを頂いたので、今までとは違う畑に挑戦してみよう。還暦を過ぎて頭も体も硬くなる一方だが、価値観や物差しを一旦強制リセットし、新しいテーマで領域展開できればと。何がしたいのか、誰と関わりたいのか、死ぬまで勉強と模索が続くんだな、と今更ながらに感じている。



『故郷 (羽咋)』を離れて、今、想うこと

山田 健(36回生)羽咋•酒井

故郷(羽咋)を離れて早38年、あらためて想うことについてお話をいたします。 私は、高校卒業まで羽咋に住まい、大学で東京に出てそのまま東京で就職。最初の勤務地が横浜であったことから、以来約34年横浜に在住しております。

大学卒業後、横浜で関西系の住宅メーカーに約 14 年。その後転職し、信託系不動産会社に約 20 年勤務して、現在は、東京・五反田にて勤務しております。

羽咋にいた頃は、自分の中ではとくかく早く東京に行きたいという気持ちが強くあ

り、あまり田舎が好きではなかったように思います。しかし、結婚して子供が生まれ家族が増えて、毎年お盆に家族で帰省するようになりました。その中で、東京での慌ただしさと羽咋での静寂さとのギャップから、羽咋が自分自身の気持ちを切り替えて、新たな気持ちにさせてくれるところであることを、歳月を重ねる中で増幅していくように感じていました。

そしてある時、帰省した際に人生の師と仰ぐ人から「苦労のないところには、成功はあり得ません」というメッセージを手紙と共にいただきました。丁度この頃は、私が会社で管理職に就いた頃で、その恩師からのこの言葉を最初に見たとき、あまり実感が沸かなかったです。それからしばらくして、日々、仕事をしている中で、この言葉の意味が分かるようになってきました。そして現在では、私自身の日々の生活の中で信条(モットー)となっています。

なお、これには前文がありまして、「何がなんでも先ず仕事に自信を持ち、なお仕事によく精通することが一番大切です。そして、管内の状況をよく把握し、また職員間にあっては、協調と融和を図りながら仕事を行うこと」という内容でした。これは、人の上に立つ者の心掛けとしてのアドバイスだったと感じています。

このことは仕事に限らず、いろいろな場面に当てはまるものと思います。ある日突然、物事が劇的に変わることはなく、日々の積み重ねによって、成長していくものである。成功を納めるには、コツコツ努力する必要があり、それが必ず結果として現れるものである。『努力は報われる』ものであると思います。この教えは大切であり、部下にも継承していきたいと思っております。



今、想うこと 花島 康夫 (37回生) 志賀・安津見

「住めば都」とはよく言ったものだと、ふと感心することがある。ふるさと志賀町を離れて37年になる。東京で暮らした方が故郷で過ごした時間の倍以上になった。折角こういう機会を得たので、少し想うところを書き綴ってみる。

私が上京したのは、昭和60(1985)年4月、世にいうバブル時代の前夜といったところか。上京した日は、桜咲く薄曇りの日であったが、遠くにあるはずのビルや橋がモノクロに威風堂々と見えて、行き交う人の多さからか、躍動感のある街並みに感激したことを今でも覚えている。そして、東京にディスコという

ものがあちこちにできていたバブル時代がしばらく続き、足繁く通った記憶が鮮明にある。今の記憶を残したまま、あの"若かった"頃に戻れたら最高だと夢見るのは私だけではないはずだと強く思う(笑)。

それから、バブルがはじけ、失われた10年という時代が20年に延びる中、私の30代、40代は仕事に追われた記憶しかない。毎日終電で、週末の休日も土日のどちらかは会社に出て仕事をした時代で、それは私だけではなかった。とにかく、仕事がスクラップされないまま、ビルドばかりされる時代であった。

それが今では、働き方改革で仕事は効率的にし(させ)、残業はするな(させるな)の時代。上京した頃は、ドラえもんしか持っていなかったであろう携帯(PC)も1人1台以上持つようになり、使いこなせない程ある機能を少し使って便利になったと感心する年代となった。時の流れはホントに早い。

そして今、人生 100 年と言われる時代になった。私は、今年で55才になるが、流石に 100 才までは無理にしても、あと30年は人生を謳歌したいと願っている。このアグレッシブな都会で人との出会い、付き合いを大切にして、もう少し愉しみたいと思っている。



ふる里は遠きに有りて思うもの

松木 吉成(41回生) 鹿島・久江

高校卒業後すぐに石川県を離れ30年ちょっと経ちました。石川県外での生活の方がはるかに長くなってしまい、今更石川県へ戻ることを考える訳でもないのですが、時が経つにつれ何かと石川県のことが気になってしまい、ふる里とは不思議なものだと近頃感じています。

現在は東京都内で、チョコレートやビスケットなどの菓子類を輸入販売しています。この仕事で直接石川県との接点は無かったのですが、小松空港にルクセンブルクからカーゴの直行便が飛んでいることを理由に

ルクセンブルク産のワインも輸入するようにもなりました。そして数年ほど前には金沢市内のホテルのソムリエに協力してもらい、一緒に石川の和菓子とルクセンブルクワインのペアリングイベントを行ったこともあります。これが自分の仕事とふる里を関連付けた初めての仕事でした。また、現在も金沢市内の小売店にチョコレートやビスケットを卸しています。

以前は冬になると羽咋市内の生産者から個包装にした「かぶら寿司」を仕入れて、東京のスーパーマーケットに卸していたこともありました。美味しくて珍しい「食」を色々な地域に紹介したいと始めた仕事でしたが、最近は新型コロナやウクライナ情勢の影響で、自由に動き回ることが出来ずに不便を感じています。それどころか、海外からの商品が予定通りに届かない事態になっていて、輸入品だけでなく国産品の扱いも増やそうかと考えています。

仕事を理由に石川県へ出張する機会を作ったり、都内の居酒屋で石川県産の日本酒を見つければ注文したり、なんだかんだと石川県が抜け切らない自分が嬉しくもあります。ただ、出張の場合は金沢が中心になるため、能登へ行く機会がなかなか無いのが残念です。それでも近い将来には能登と関連のある仕事ができるよう模索中です。

最後に、最近とても驚いた石川ネタです。それは県知事が変わったことです。私が生まれて から今年3月に変わる前まで、二人の知事しかいなかったなんて、良くも悪くも驚きです。



今日が人生で一番若い日 横山 雅美 (41 回生) 羽咋・柳田

羽咋高校を卒業し、あっという間に 50 歳を過ぎたおばちゃんになりました。 皆さんは将来のキャリアを描けていますか。「これからどうやって生きていこう」 と考える時、仕事面だけでなく、プライベート面も大切です。働き方・生き方の 選択肢は多様です。目標を持って、キャリア形成をすることが重要であり、私

のような失敗をしないようにとこの原稿を書いています。

私は、何の資格もなく、生きていくことを積み重ねていった結果、『仕事なし×未婚×子なし』になってしまい、現在は一般社団法人和文化推進協会の代表理事をしながら、就職活動をしています。

和文化推進協会の主な活動は、下記になります。

- ・日本を拠点に活動する作家、クリエイター、アーティスト、職人等の活動を支援
- •コワーキングスタジオ「京都朱雀スタジオ」の管理運営

2022 年は、京都を拠点として、スタートアップを図る個人・法人の皆様をサポートしたいと思います。 アップル創業者である故 Steve Jobs 氏は、"The only way to do great work is to love what you do. If you haven't found it yet, keep looking. Don't settle."と述べました。

「今日が人生で一番若い日」

物事に遅いなんてことはありません。諦めず、まずはやってみることが大切だと思います。私も諦めず、頑張ってみようと思います。

2020 年以降、世界が大きく変わったことを実感しています。新型コロナ感染症、ロシアによるウクライナ侵攻など、一刻も早く平和が戻ることを願います。

最後になりましたが、同窓生の皆様、在校生の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



コロナ禍での単身赴任 中森 浩光 (42 回生) 羽咋・千里浜

私は令和2年4月から2年間、霞が関にある省庁に出向していました。田舎者を 自負する私は、地元を就職先に選んだのですが、縁あって県外での勤務は今回が 3回目となりました。

私が単身赴任として上京した時期は、東京都に初めて新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出された一週間前のことであり、未知のウイルスへの不安や警戒心から新幹線や東京駅の利用者はまばらで、閑散とした街の風景に衝撃を覚えました。

東京での生活拠点は東久留米市にある国家公務員宿舎で、片道1時間以上かけ通勤していたのですが、感染防止対策が強化され平日は主にテレワーク、休日はステイホームと在宅する時間が多くなり、屋外で行動する機会がなくなってしまいました。

そんな時に、職場の同僚から休日は外に出てランニングしているという話を聞き、私が住む宿舎の周囲を地図等で確認したところ、市内を流れる川の河川敷にランニングコースが整備されていることが判明したのです。早速、インターネットで情報を集め、人とのフィジカル・ディスタンスを保ちマスクをするなどのコロナ対策を徹底した上でランニングを始めました。

私がランニングを始めたきっかけは、「お酒が美味しく飲める」といった不純な動機からでしたが、今ではランニングによるフィジカルトレーニングがストレス解消などメンタルトレーニングに繋がっているように感じていて、これは私がランニングを続ける理由となっています。

また、ランニングは必要な道具が少なく、自分のペースで比較的手軽に始めやすい上に、エネルギー消費量が多く脂肪分解・燃焼が高まるため、運動不足解消の手段として最適なスポーツだと思います。

ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、宝達志水町では 2018 年から「宝浪漫マラソン」が開催されています。私は第1回大会から参加していますが、この大会の特徴として千里浜海岸がコースの一部となっており、砂浜を実際に走っていると羽咋高校の伝統行事である校内マラソン大会の思い出が溢れてきます。

ふるさと不足を感じた折には千里浜海岸を走ってみてはいかがでしょうか。



高校時代を振り返って 加藤 信二(47回生)羽咋・千里浜

まだ日が高い日曜日の夕方前、男達が颯爽と、空き地の中央に向かい、"草"クリケ ットが始まった。日本の野球と同じで大きな当たりには歓声が上がり、草むらにボー ルが入って、何人かが探し回っている。

オミクロン株感染者拡大の懸念から Weekend curfew(土日外出禁止規制)が、私 が単身赴任しているインド カルナータカ州で 1 月に実施されましたが(現在は取下 げ)、一部のインド人は、マスクもしないで休日を楽しんでいるように見えました。

現地での社内駅伝大会

規制でもない、"お願い"を守る日本人との差に驚きながらも、ここはインドなんだなと 納得しつつ、まだまだそのメンタリティに慣れない日々過ごしています。

大学卒業後、機械メーカーに就職して20年以上が経ち、インド現地会社に赴任し、フレンドリーなスタッ フ達と仕事をする現在です。高校で習う英語の文法や単語が、日常的に話され、また自分の考えを表すの に大事であるということを、今更ながらに実感します。また、スタッフの彼ら、彼女らは自分の意見をよくしゃ べるので、こちらも負けずに論理的に返すことができるように、語彙を日々勉強中です。

高校時代を振り返れば、特に先生方の手厚い受験指導、サポートが思い出されますが、自主学習用の プリントを職員室にもらいに行くなど、積極的に行動すると先生方も親身になって対応してくれるなど、今思 うと社会人として必要なことを、実地で体験できたことは大きいと思います。学年の仲間との楽しい思い出も ある一方で、反省や失敗は山ほどしました。しかしながら、小さな自信や、決断の積み重ねで今があると思 っています。

私自身は当時と何も変わってないと感じますが、高校時代の私が、ターバンを巻いたシク教徒の同僚と 雑談しているとは思わなかっただろうなと、今回の機会をいただき想い返しました。

このコロナ禍の中、在校生の皆様、同窓会の皆様のご健康と、今後のご活躍を祈念しております



四半世紀経ても色あせぬ高校生活

森 圭吾(49回生)志賀・高浜

新型コロナウイルス(COVID-19)の流行拡大から2年あまりが過ぎ、その間はずっ と石川県に足を運ぶことができていません。学生時代から盆と正月の2回は必ず帰 省していた身からすると、これほど故郷との距離を感じた時期は記憶にありません。 そんな中、昨年(2021年)は私が所属していたボート部の同級生たちが SNS でグ ループをつくり、思い出の写真を共有するなどして交流を再開させました。個々には たまに連絡を取ったりもしていましたが、共に競技で汗を流していたメンバーが一堂

に会する中でのやり取りは四半世紀の時を経ても色あせない思い出を呼び起こしてくれました。ある意味で "コロナ禍"があったからこその「再会」といえるかもしれません。競技経験のある指導者がいない中、先輩た ちと県内随一の強豪校まで教えを請いに行ったこと、最後の高校総体で初めて県大会を突破し、わずかな がらでも引退の時期が北信越大会まで延びて仲間と喜び合ったこと、強化合宿で、強くなるためにはどうす ればいいのかと明け方まで語り合ったことなどが、昨日のことのように浮かんできます。

私の在校時にボート部の顧問を務めてくださった山口太郎先生、中川久仁彦先生は、誰も経験者がい ない中、記録を伸ばすためにどうやって能力を向上させるべきか、他校のように息の合ったプレーができる のかと手探りをしながら練習に打ち込む私たちを温かく見守ってくださいました。試行錯誤をしながら部活 動に打ち込めたことが、望外の成績を残せた要因となったのかもしれません。自分たちで考え、動くことの 大切さを体験し、学べたことは大きな財産となっています。

卒業して間もない同窓生や在校生の中には、こうした活動や体験がしづらい分、我々よりも非常に難し い時期を過ごしていることと思います。ただ、羽咋高校には創立 100 周年という長い歴史があり、それだけ 数多くの同窓生がいます。こうした先輩たちを頼り、甘えてほしい。世代は違っても、同じ高校の出身と聞い て喜ばない先輩はいません。コロナ禍という世界中が未曽有の困難に直面している今こそ、同窓会の重要 性が増してきていると思います。今年こそは、懐かしい同窓生の皆さんにお目にかかることができれば、こ れほどうれしいことはありません。



これまでの歩みを振り返って サガキケイタ (54回生) 羽咋・富永

レオナルド・ダ・ヴィンチ、フェルメール、葛飾北斎。名前を聞けば、すぐにいくつかの絵が、思い浮かぶのではないだろうか。それらの有名な絵に近づいて見ると、その図像は無数の緻密なイラストや、キャラクターの集合体によって描かれている。現在、私はそういうちょっとヘンテコな絵を描いているサガキケイタという画家である。

小さいころから絵を描くことが好きだったので、芸術関連の仕事をしたいと思っていた。それで高校卒業後は大学で美術教育を学び、その後、東京で美術教師の職に就いた。都立高校で美術を教える傍ら、作品を作って個展やグループ展、コンペなど

で発表し、画家としての一歩も踏み出した。教師の仕事は大変でしたが、それなりに達成感もあった。けれ ど、もっと自分の表現を追求していきたい、そして、それを生業にしていきたいという思いが日を追うごとに 強くなり、一念発起して7年間勤めた教師を辞め、(妻から何とか承諾を得て)画家一本で生きていく道を選 択した。

退職した 2015 年からは、専業画家として活動をスタート。東京のギャラリーでの個展やアートフェアを中心に作品を展示してきた。また、昨今の SNS の普及により、インターネットを通じて、世界中の人々に作品を知ってもらえるというのはとても大きかった。近年では、ネットで繋がったいくつかの海外のギャラリーからオファーをもらい、これまでドイツ、香港、台湾のギャラリーで個展を開催することができた。海外の人達にパソコンのモニター越しではなく、実際の絵を観てもらい、直に感想や反応を聞けたのは画家として良い経験になった。

羽咋高校を卒業し、地元の羽咋を離れて、今年でちょうど 20 年。秋には久々に東京で個展を予定しており、それに向けて目下制作中である。作品や展覧会の情報は作家名で検索するか、私のオフィシャルサイト (https://sagakikeita.com)でも随時更新していくので、見てやってもらえればと思う。また、実物を見てみたいという方は、ぜひ個展に遊びに来てもらえると幸いです。



高校時代の思い出 木下 晴美(旧姓:柴田) (54 回生) 鹿島・井田

私が仕事帰りによく寄る郵便局の近くに、メタセコイアの並木があります。そこを通るたびに高校時代が思い出されます。そのとりとめのない思い出を書いてみようと思います。

羽咋高校にも校舎に沿うように大きなメタセコイアが植わっていましたね。教室の窓を覆うメタセコイアの葉。春は黄緑色のカーテンのようなのが、夏は深緑色にうっそうと生い茂り、秋は茶色の葉が日の光で透き通るようにきれいでした。

私は演劇部員でした。冬の部室は温かくてみんなでワイワイと楽しく居心地がよかったです。となりの JRC 部にもよく遊びにいっていました。夏は風通しのいい場所を求めて、美術室でお昼ご飯を食べました。美術室はメタセコイアがうっそうと茂る教室とは打って変わって見晴らしがよく、友達と歌ったりしていました。窓から職員室が見えるので先生が小テストのプリントを準備しているのを見つけて慌てて勉強したりもしました。隣の音楽室からはたまにピアノも聞こえてきて、この雰囲気が大好きでした。

お昼ご飯といえば、学校の向かいに八幡が、隣にはモスバーガーがありました。私と同じくらいの年代の 方は買いに行ったことが一度はあるのではないでしょうか。モスのセットは当時の私には値段が高く、友達と 連れ立っていく、たまの楽しみでした。

もうどちらもなくなってしまい残念に思いますが、今の生徒さんたちは、ファミマやバローで買い物をするのでしょうか? お菓子も気軽に買えそうでうらやましいです。

私は今の言葉でいうと陰キャな生徒でしたが、それでも青春だったなあと懐かしく思い出されます。これを書いている今、長男が高校受験の真っただ中です。これから素敵な青春時代を過ごしてほしいと願っています。コロナ禍で修学旅行がなくなったり、高校見学の予約が取れなかったりと、残念なこと大変なことも多いですが、息子本人は意外と受け止めて着々と最後の中学生活を楽しんでいるように見えます。おろおろしているのは親ばかり。

私のほうは高齢者施設でパートをしていますが、いずれステップアップするか悩んでいるところです。

羽咋高校関東同窓会 名誉会長 ふるさと関東羽咋会 名誉会長

中18 羽咋・島出

元共栄大学客員教授

倉部 行雄

〒178-0063 東京都練馬区東大泉6-8-22 Tel /Fax 03-3922-1157

卒寿プラス・4 (94才) で、皆様のご多幸を記念します。 同窓会出席率より生存率。同窓会、欠席すれば死亡説。

高 10 羽咋・吉崎

塗装工事 防水工事

HAKUI

リフォーム工事 知事許可第18772号

株式会社 JL ・フーイ 建装

+ 田 米 取締役会長

〒223-0065 横浜市港北区高田東2丁目16番15号 TEL 045(542)0711 FAX 045 (542) 0637 携帯 090-3230-4180 E-mail: hakui@watch.ocn.ne.jp

若い世代を大切に!俺が俺がにならないこと。

ふるさと関東羽咋会 会長 同志社女子大学 名誉教授 高14 羽咋・粟生

商学博士

F 山

〒182-0004 東京都調布市入間町3-6-44 Tel/Fax 03-3789-3722

ふるさと羽咋の情報をお互いに共有し、発信しましょう!

高15 志賀·清水

ライフホーム有限会社 Life Home

宅地建物取引業神奈川県知事免許(6)21721号 電気工事業者神奈川県知事登録 第220042号

代表取締役 宅地建物取引士 松田建次

〒223-0062横浜市港北区日吉本町2丁目22-23 TEL 045-564-3588 FAX 045-561-5902 第1級アマチュア無線局 JRI-DPC横浜 日吉 mazda_702@nifty.com

高16 志賀・上熊野



東浴信用組合

理事

北 口

〒101-8630 東京都千代田区東神田1丁目10番2号 Tel (03)5687-2640 (代表) Fax (03)3865-5097 URL http://www.touyoku.shinkumi.jp

高2 宝達志水・宝達

プラスチック・ガラス試作と精密加工 分注器機 開発 制作



不二技研工業株式会社

并信夫 代表取締役 会 長

> 〒170-0012 東京都豊島区上池袋3-4-11 Tel 03-3917-6137(代) Fax 03-3915-1313

> > 生涯現役! 若人頑張れ!!

高10 志賀・安津見 株式会社 村田製作所 代理店 岡谷電機産業株式会社 代理店 日立エーアイシー株式会社代理店 ビシェイジャパン(株)代理店

電子部品総合商社

加)深度パーツ株式会社

取締役会長 大 矢 昭 雄

本社: 〒214-0031

川崎市多摩区東生田1-13-5 多摩パーツビル Tel 044-900-3801 FAX 044-900-3310

物流部:〒214-0031

神奈川県川崎市多摩区東生田1-13-6 Tel 044-900-3801 FAX 044-900-3310

今年は母校100周年です。羽松ヶ丘の友よ。頑張ろう!

%) 実朋美術社

高16 羽咋・中央

社主 本 多

游宇 (P.N)

〒216-0006 川崎市宮前区宮前平 3-9-6-102 Tel/Fax 044-853-7139 (事務所) 田園都市線 宮前平駅 徒歩2分

「人生謳歌」の同窓会に!

の N を ♡ N を S S 高19 羽咋・釜屋

株式会社ワン・ネス

犬塚 清美

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2丁目4-3-1005 TEL &FAX: 03-3967-1156 E-mail: kiyomi0770@gmail.com

人生100年の時代!まだまだ楽しく生きたいですね♡

羽咋高校関東同窓会 会長 高20 宝達志水・上田 宝達志水関東ふるさと会 副会長 いしかわ観光特使

> 清 池

〒110-0003 東京都台東区根岸3-6-1 根岸拾番館2F(株)羽興 Tel 090-1842-7573 ☑ uko@h2.dion.ne.ip



松沼医院

内科·小児科·循環器科·呼吸器科

松沼恭一

〒929-1414 石川県羽咋郡宝達市水町敷浪247 Tel 0767-29-3188 Fax 0767-29-2991

地域医療に頑張っています!

高22 羽咋・千里浜

オーナー 杉浦 節美

風の沢ミュージアム



風の沢ミュージアムは、現代美術館、ギャラリー、 カフェ、ショップ、里山公園からなる複合施設で す

〒987-2302 宮城県栗原市一迫片子沢外の11

電話:0228-52-2811

集まりの悪い22回生! 年老いた顔を見せ合おう。

取締役常務執行役員

高25 羽咋・釜屋

高20 宝達志水・敷浪

創薬研究所・開発企画部・製剤技術開発部・

海外技術開発部担当 学術博士

山川富雄

日本ケミファ株式会社

創薬研究所 埼玉県三郷市彦川戸1丁目22番地 ₹341-0005 Tel 048-952-4311 Fax 048-952-0743 社 東京都千代田区岩本町 2-2-3

₹101-0032 Tel 03-3863-1211

t-yamakawa@chemiphar.co.ip http://www.chemiphar.co.ip

羽咋市長は、同期の岸君です。皆で応援しましょう。

「絆」は皆様の協賛で発行でき ますこと、深く感謝いたします。

高27 羽咋・川原

とどろき医院

本部同窓会 会長

千栄子

〒925-0027 石川県羽咋市鶴多町切道8-4 Tel 0767-22-7855 Fax 0767-22-0676

今年は創立100周年、みなさまのご支援をお願いします。

株式会社インプルーブメンツ

高27 羽咋・鶴多

代表取締役社長

平 美都江

〒925-0027

石川県羽咋市鶴田町亀田49番地

TEL 0767-22-9514 / FAX 0767-30-1015 Mobil 090-2231-0944

Email taira@taira-improvements.com

Home Page https://taira-improvements.com/

なぜ、おばちゃん社長は

利益爆発の

儲かる工場にできたのか?



従業員の快適性をとことん追求したら実現

なぜ、おばちゃん社長は

儲かる工場にできたのか?



いしかわ観光特使 高27 宝達志水・上田 羽咋高校関東同窓会 副会長 兼 事務局長 宝達志水関東ふるさと会 事務局 稲荷第一町会 理事(総務部長)

赤池典充

〒340-0003 埼玉県草加市稲荷5-35-36 TEL 090-2334-9276 MAIL:ntsk-aka@outlook.com

笑顔で声かけを!わが家・わが地域・わが職場で!

令和4年度 羽咋高校関東同窓会 第63回 総会開催 のお知らせ

日時:9月24日(土)

受 付:12時30分~

総 会:13時~14時

懇親会:14時~16時

会場:アルカディア市ヶ谷(私学会館)

千代田区九段北4-2-25

市ヶ谷駅「A1」から徒歩1分



★ 今年からオンラインZoomによる参加が できます。Zoom参加希望者は、事務局へ メールで参加の連絡をお願いします。

*事務局:ntsk-aka@outlook.com

後日、参加用URLをメールします。

また、総会終了後にZoom懇親会を予定し ています 同級生ごとや、近い卒業年度生で グループ分けし、個別ルームでオンライン 交流(飲み会)が楽しめます。

有限会社 牛勝

高27 羽咋・川原 携帯電話 090-8966-0848

代表取締役



□本社 / 本店 〒925-0033 石川県羽咋市川際町テ 27-3 Tel 0767-22-0029 Fax 0767-22-8429

□カウイン牛勝 (アルプラザ鹿島) Tel 0767-76-2304

宝達志水 · 杉野屋

高下謹壱法律事務所(第一東京弁護士会) 石川 **県人会副会長** 金沢大学教育学部付属高等学校同窓会 関東支部支部長

第一東京弁護士会 平成26年產副会長



弁護士 謹壱 高下

〒104-0061 東京都中央区銀座5丁目8番5号 ニューギンザビル10号館4階 TEL. 0 3-5 5 6 8-6 6 5 5 (代)

姉と妹・いとこ2人は羽咋高校卒業生です。

編集後記

「絆」17号発刊に際し、原稿ならびに名 刺広告をお寄せ下さった皆様に感謝申し上 げます。それぞれの生き方の中に、「羽高 魂健在なり。」というひたむきな熱い思い が感じられます。今号は、創立百周年を迎 えるにあたって校歌の作詞者である折口信 夫氏を特集し、校歌の由来と「杜の鐘」に ついて紹介した節目の一冊となっておりま す。歌詞に描かれた青春のひとときは、私 たち同窓生一人ひとりの人生の礎です。こ れからも同窓の絆を深め、母校を私たちの 活力の源として大切にしていきたいですね。

事務局 森村睦子(高26)

百年・一世紀・センチュリーの思い出



羽咋中学校



羽咋高等女学校



羽咋高等学校







王 羽咋中学校校?	

昭和 45 年 羽咋高等学校 新校舎

羽咋喜笙学校 租校会

		于仅仅日 初叶同			A CONTRACTOR OF THE SECONDARY	CONTRACTOR OF THE PROPERTY OF		L 41	初叶尚守于仪坑仪古
年号	西暦	中/高 高女	年齢	出 来 事	年号	西暦	高	年齢	出来事
大 12	1923		117	石川県立羽咋中学設立	昭 48	1973	高 25	68	プール竣工
大 13	1924		116	校友会設立	昭 49	1974	高 26	67	「杜の鐘」モニュメント竣工
大 14	1925		115	新校舎へ移転	昭 50	1975	高 27	66	剣道部全国大会出場
大 15	1926		114	町立羽咋高等女学校設立	昭 51	1976	高 28	65	剣道部:八十田(30)国体出場
昭 2	1927		113	高女寄宿舎「羽交寮」開設	昭 52	1977	高 29	64	ボート部新設
昭 3	1928	中 1	112	中学第1回卒業式	昭 53	1978	高 30	63	中庭完成
昭 4	1929	中 2	111	御大典記念図書館落成	昭 54	1979	高 31	62	放送コンテスト県大会最優秀:東山(33)
昭 5	1930	中 3 女 1	110	石川県立高等女学校第1回卒業式	昭 55	1980	高 32	61	校歌碑設置
昭 6	1931	中 4 女 2	109	同窓会誌「協和」創刊	昭 56	1981	高 33	60	藤棚完成
昭 7	1932	中 5 女 3	108	創立 10 周年記念式典	昭 57	1982	高 34	59	創立 60 周年記念式典
昭 8	1933	中 6 女 4	107	生徒末森城に立て籠り	昭 58	1983	高 35	58	校内に冷水機設置
昭 9	1934	中 7 女 5	106	高女県内卓球大会優勝	昭 59	1984	高 36	57	女子夏服制定
昭 10	1935	中 8 女 6	105	「学友会誌」第 10 号発刊	昭 60	1985	高 37	56	特別教室棟増設
昭 11	1936	中 9 女 7	104	高女設立 10 周年記念式典	昭 61	1986	高 38	55	男女剣道部インターハイ出場
昭 12	1937	中10女8	103	日中戦争はじまる	昭 62	1987	高 39	54	運動場整備一期工事
昭 13	1938	中11女9	102	東京オリンピック中止	昭 63	1988	高 40	53	軟式庭球石川県女子チームに4人(国体3位)
昭 14	1939	中 12 女 10	101	日米通商航海条約破棄	平元	1989	高 41	52	運動場整備二期工事完成
昭 15	1940	中 13 女 11	100	日独伊三国同盟	平 2	1990	高 42	51	第二体育館改造工事完成
昭 16	1941	中 14 女 12	99	太平洋戦争はじまる	平 3	1991	高 43	50	軟式庭球国体団体2位:白江(44)
昭 17	1942	中 15 女 13	99	ミッドウェー海戦	平 4	1992	高 44	49	40 人学級(定員 280 名)
昭 18	1943	中 16 女 14	98	学徒出陣	平 5	1993	高 45	48	女子団体空手北信越大会2位
昭 19	1944	中 17 女 15	97	B29による本土爆撃	平 6	1994	高 46	47	北信越軟式庭球男子2位、剣道男子2位、空手男子3位
昭 20	1945	中 18 女 16	95	ポツダム宣言受諾・終戦	平 7	1995	高 47	46	隔週5日制開始
昭 21	1946	中 19 女 17	95	南海道大地震	平 8	1996	高 48	45	第二体育館大規模改造工事完成
昭 22	1947	中 20 女 18	94	学校教育6・3・3・4制	平 9	1997	高 49	44	定員5学級 200 名
昭 23	1948	中 21 女 19	83	石川県立羽咋高校と改称	平 10	1998	高 50	43	関東支部 40 周年:新川二朗氏来演
昭 24	1949	高1	92	第1回羽咋高校卒業式	平 11	1999	高 51	42	北信越なぎなた団体2位
昭 25	1950	高 2	91	大聖寺-金澤間驛傳競争優勝	平 12	2000	高 52	41	定員5学級 200 名
昭 26	1951	高 3	90	校歌制定:作詞折口信夫	平 13	2001	高 53	40	図書館棟耐震工事完成
昭 27	1952	高 4	89	室矢芳隆オリンピック壮行会	平 14	2002	高 54	39	週5日制 二学期制
昭 28	1953	高 5	88	農業課程廃止	平 15	2003	高 55	38	フロンティアハイスクール認定
昭 29	1954	高 6	87	ビキニ環礁第五福竜丸被爆	平 16	2004	高 56	37	Super English Language High School 指定
昭 30	1955	高 7	86	定時制志雄分校、中心校に統合	平 17	2005	高 57	36	推薦入学制度導入
昭 31	1956	高 8	85	北信越・北陸弁論大会優勝	平 18	2006	高 58	35	関東同窓会「絆」発刊:第18代当主前田利祐氏
昭 32	1957	高 9	84	全国大会に 39 選手出場	平 19	2007	高 59	34	能登半島地震:運動部奉仕活動
昭 33	1958	高 10	83	北陸三県弁論大会優勝	平 20	2008	高 60	33	関東同窓会 50 周年: 辻口博啓氏講演
昭 34	1959	高 11	82	同窓会関東支部発足	平 21	2009	高 61	32	学力向上実践モデル事業推進校指定
昭 35	1960	高 12	81	北陸三県弁論大会優勝	平 22	2010	高 62	31	推薦入学制度廃止
昭 36	1961	高 13	80	定時制が旧高等女学校校舎に移転	平 23	2011	高 63	30	教育力向上推進事業校に指定
昭 37	1962	高 14	79	北信越弁論大会優勝	平 24	2012	高 64	29	羽咋高校創立 90 周年式典
昭 38	1963	高 15	78	高浜分校設置	平 25	2013	高 65	28	課題発見力育成事業推進校に指定
昭 39	1964	高 16	77	創立40周年記念式典/商業科廃止	平 26	2014	高 66	27	関東同窓会:高野誠鮮氏講演
昭 40	1965	高 17	76	高浜分校が高浜高校に	平 27	2015	高 67	26	探求スキル育成事業推進校に指定
昭 41	1966	高 18	75		平 28	2016	高 68	25	関東同窓会:新川二朗氏公演
昭 42	1967	高 19	74	野球部北陸大会2位	平 29	2017	高 69	24	いしかわ高校科学グランプリ2位
昭 43	1968	高 20	73	家庭科廃止 普通課程	平 30	2018	高 70	23	国体剣道少年少女2位、やり投げ少年男子5位
昭 44	1969	高 21	72	新校舎特別教室管理棟完成	令元	2019	高 71	22	新制服制定
昭 45	1970	高 22	71	第一体育館完成	令 2	2020	高 72	21	募集定員 160 名
昭 46	1971	高 23	70	新校舎落成式	令 3	2021	高 73	20	入学生 141 名(定員割れ)
昭 47	1972	高 24	69	定時制は石川県立羽松高校	令 4	2022	高 73	19	羽咋高校創立 100 周年式典
						_		_	

発行日:2022年6月25日 発行者:石川県立羽咋高等学校関東同窓会 発行部数 1,500部編 集:関東同窓会「絆」編集委員会 事務局:赤池典充(27) 電話 090-2334-9276